

# あそびまつりだより No.3

頌栄幼稚園

2020.9.11

全学年でののびのび遊び（園庭遊び）が始まり、二週間が経ちました。子ども達は自分の好きな遊びを友達と出来て、目を輝かせながらお外遊びを楽しんでいます。年少組の子ども達にとっては初めてのあそびまつり！ご用意をしたらお外に行こう！ということで、張り切ってご用意をしてお外に出ています。

今回は子ども達の会話や様子を少し、お伝えしたいと思います。



お外のある箱を発見した年少組の子ども。覗き込んで「なにこれ？」「これ、デカパンっていうんだって！」「えー！デカパン？」と大笑い。

「二人ずつ入れるんだよ。〇〇ちゃん一緒に入る？」誘われたお友達は、喜んでデカパンの中に入ろうとしますが、年少の子どもには難しそう。近くにいた年中さんが、「それはこうやってやるんだよ」とデカパンを広げて入るところを見せてくれました。

「こうやって入るんだってー！」

「なんか電車みたいになった！」と言うとそのまま笑顔で走る姿がありました。

お片づけの時間になると「おかたづけ〜！」という声が園庭に響きます。「この辺に置かか」「いや、もうちょっとこっちのほうがあれとか置けるんちゃう？」「一人で出来へん、誰か手伝って！」etcお片づけもお友達と協力してしながら行っています。助ける力がとても輝いています。



年少組のAくんと、跳び箱の順番を持っていた年中組とのエピソードです。6段のとび箱の上に乗るAくん。跳び箱に並んでいた年長組の子どもが、「危ないよ！」と声をかけます。しかし、「ううん、大丈夫だよ！」と言って降りないAくん。少しするとAくんは降りるのですが、並んでいる子どもが走り始めると、またAくんが跳び箱に登ろうとします。困った子ども達で話し合いをしました。「落ちたら危ないから登ったらあかんと思う」「でもさ、登りたい気持ちもあると思うねん。」じゃあどうしたらいいのかな？年長組はたくさん考えました。話し合いは、「登ってもいいけど、そのまま乗っているのは危ないから、並べるように教えてあげよ」とまとまりました。登ってもいい！その気持ちわかる！でも危ないから教えてあげる！という気持ちが嬉しいです。

## 年少恩物遊び



年少組、初めてのまりあそび。ころころ〜と転がってくるまりをキャッチするととても嬉しそう。まりでどんなことができるかな？と遊んでみると、いろいろなアイデアが出てきました。ゆらゆら〜と揺らす、ベルトやネックレスに変身させる、頭に載せてみる、友達と二人組になってクロスさせてつながる、同じ色の友達とつながり大きな円を作る子もいました。そのつながった円からは、いつも楽しんでいるわらべうたのいっぴきちゅうが始まり、心があたたかくなりました。